



@幸せな贈り物

## 金持ちと 貧しい者の ちがい

してあげられなくて、ごめんね。娘よ...少し前、事業に失敗した後、家族と離れて住んでいた40代の男性がソウルのあるアパートの中で亡くなっているのが発見されました。電気技術者であったコさんは、事業に失敗して家族と離れて暮らしていました。特に20歳くらいになる娘に対しての思いが大きかったのですが「家庭を壊した」という自責感のために、あまり会えずにいました。会いたくても、会うことができない娘と、3月11日に会おうと約束したのですが、会えませんでした。その時は、すでに亡くなっていたのです。結局、3月1日に娘と電話で言ったことばが遺言になってしまいました。「パパは、あなたになにもしていないな。本当にごめんね」貧しさは、私たちの人生に多くの不幸をもたらします。そして、だれも貧しくなることを願わないのですが、この世にはあいかかわらず、金持ちと貧しい者が共存しています。そのちがいは何でしょうか。

ジュリア投資ノートでは、金持ちと貧しい者の5つのちがいを指摘しました。最初に、**金持ちは成功に、貧しい者は娯楽に焦点を合わせる**。<How Rich People Think>金持ちの考えはどのように違っているかという著者スティーブ・シーボルト (Steve Siebold) は、スーパーリッチと平凡なサラリーマンの最も大きい差異点は、考え方だと指摘します。金持ちは、会えばアイデアと情報を交換して、事業と寄付、芸術品投資などの話題を話します。反面、平凡なサラリーマンは、タレントやスポーツ、町中に飛び交うゴシップを話題にして時間を過ごします。二つ目、**金持ちは新聞を読んで、貧しい者はテレビを見る**。コンサルティング会社「エプルオンス・コレボロティブ」が昨年4月に発表したアンケート調査結果を見れば、金持ちと平凡な人のインターネット使用で最も著しいちがいは、ニュースに対する態度でした。年俵が50万ドルを越える人々は、ウォールストリートジャーナル (WSJ) など、言論サイトに入ってニュースを読んで、一週間に11時間以上、紙の新聞を読むと答えました。反面、年俵20万ドル未満の人々は、おもにテレビを見ることに時間を投資していました。三つ目、**金持ちは静かで、貧しい者は騒々しい**。アメリカの階層別の特徴を研究した〈階層移動のはしご〉という本では、相続される貧しさの特徴の一つで「テレビが状況に関係がなく、ほとんど常についている」という点を指摘しました。テレビがいつもついてる家で真剣に考えたり、家族間で仲むつまじく対話する場面は思い出しにくい。「空の容器がいちばん大きな音を出す」ということわざがここから出たのでしょうか。四つ目、**金持ちは清潔で、貧しい者は汚らしい**。サミュエル・コスリン、アメリカ、テキサス大教授が学生たちの自炊の部屋と寄宿舎部屋83箇所、企業事務室94箇所を調べた結果、汚らしい空間を持った人々は清潔な空間を持った人々より効率的でなくて、体系的にできず、創造力も落ちました。周囲が乱れていることは、それだけ怠惰だという意味です。それでは、頭の中も整理できません。五つ目、**金持ちは投資して、貧しい者は消費する**。〈階層移動のはしご〉という本で貧困層にお金とは「消費すること」であり、金持ちには「保存して投資すること」だと指摘しました。しばしば「私はお金をたくさ

んもうけたら、なんでも勝手にして、なんでもする!」と話します。そのような人の中で金持ちになる人はいません。

トーマス J. スタンリー (Thomas J. Stanley) 博士が書いた『隣の家の百万長者』という本でも、興味深い事実を伝えています。純資産 10 億以上の金持ちは、アメリカの人口の 3.5%しかいません。ところで、その人々が最も重要に思うのは「節約」であり、自分の富に比べてはるかに質素に生活しています。彼らの中に、美食家はほとんどいなくて、ブランド物の腕時計やブランドのカバン、ブランドの靴とスーツを所有している人もほとんどいません。彼らは自分の富にふさわしい消費をして、自分の富に比べて浪費と考えられる支出はほとんどしないとしました。自分の経済は自分だけが責任を負うことができます。自分を節制できないならば、神様もみなさんに多くの経済を任せられないでしょう。イエス様もこのようにおっしゃいました。「小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。」(ルカの福音書 16:10)

**差別のない豊かさ** 神様は、人間を差別されません。むしろ神様の願いはこのようです。「**実に神はすべての人間に富と財宝を与え、これを楽しむことを許し、自分の受ける分を受け、自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。**」(伝道者の書 5:19) と言われていました。ところが、それを味わえない人が多いことを、また、語っておられます。「私は日の下で、もう一つの悪があるのを見た。それは人の上に重くのしかかっている。神が富と財宝と誉れとを与え、彼の望むもので何一つ欠けたものがない人がいる。しかし、神は、この人がそれを楽しむことを許さず、外国人がそれを楽しむようにされる。これはむなしいことで、それは悪い病だ。」(伝道者の書 6:1~2)

それなら、人間にまことの豊かさを与えられる神様の基準は何でしょうか。

聖書を見れば、愚かな金持ちのたとえが出てきます。ある金持ちが持っている所有を見ながら告白して「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」そのとき、神様がこのようにおっしゃいました。「『**愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。**」(ルカの福音書 12:20~21)

神様が人間にまことの豊かさをくださる基準は、神様とともにいる永遠のいのちです。聖書は、私たち人間が肉的なものだけでは生きられない霊的存在で、神様に会ってこそまことに幸せになる存在であることを語っています。神様を離れて、願ってもいない罪とのろいと苦しみの中でサタンに縛られている人間を救ってくださるのが神様の願いです。それで、この世にイエス様を送ってくださいました。その方は、聖書に預言されたキリストとして来られて、十字架で死んで復活することによって、人間自らが解決できない霊的問題(サタンがもたらした問題)と罪によるのろいと運命を完全に解決して神様に会う道を開いてくださいました。そして、だれでもイエス・キリストを主人として受け入れるようになれば、神様の子どもになり救われることによって、所有を越えたまことの豊かさを味わうようにくださったのです。子どもが母親を見つけて、そのふところに抱かれるときに持つ安堵感のように、そのような根源的な幸せと豊かさのことを言うのです。この驚くべき救いの豊かさの中に、今、みなさんを招待します。

「主イエスを信じれば救われます。  
あなたは大切な人です」

聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。

「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。

(ローマ人への手紙 10:11~13)

福音メッセージ

# 人間はなぜ幸せではないのでしょうか

私たちは、人生を歩んでいると、解決できない問題の中に置かれることが多くあります。家族問題、職業問題、子ども問題、不安な未来、霊的な問題、肉体的な問題がいつも私たちの前に置かれています。それで、麻薬や酒におぼれたり、放蕩した生活を送ったりもします。答えがなくて、宗教や風習、シャーマニズム、お金、権力に頼って生きていったりもします。なぜ、こういう問題が来るようになるのでしょうか。その解決策は、はたして何なのでしょう。

## 1. 本来の人間

万物の中で唯一、人間だけが神様のかたちとして創造されました。魚は水の中に、鳥は空中に、木は地中に根をおろして生きなければならぬように、神様のかたちとして創造された人間は、神様とともに生きなければなりません。(創世記 1:27~28)



## 2. 人間の犯罪

人間はサタンにだまされて、不信仰になり、罪を犯すようになって、結局、神様を離れてしまい、私たちのたましいは、死んだ状態でサタンの支配を受けながら生きるようになりました。サタンは神様に敵対して、人間に苦しみをもたらし、結局は滅ぼします。(創世記 3:1~6)

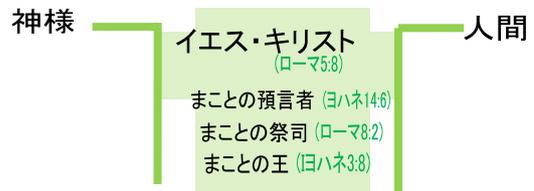


## 3. 神様を離れた人間の根本問題

- (1) 悪魔(サタン)の子ども ▶ 神様を離れた人間は、霊的に死んだ状態であり、悪魔(サタン)の支配を受けるようになりました。(ヨハネ 8:44)
- (2) 偶像崇拜 ▶ その結果、迷信、偶像に陥って、占い、お祓い、善行をしてみるのですが幸せはなくて、方角、墓地を自由にできない運命と運勢に縛られて生きようになります。(エペソ 2:2)
- (3) 精神的な苦しみ ▶ 不安、不平、むなしさ、精神病、不眠症、ノイローゼ、うつ病など、おかしな呪いに捕われ、背景も良くて知識も多く、お金も多いのに、どんどん滅びるようになります。(エペソ 2:3、マタイ 11:28)
- (4) 肉体的な苦しみ ▶ 不治の病、病氣、悪夢に苦しめられて金縛りにあったり、病名もないのに全身が病気の苦しみを受けるようになります。(使徒 8:4~8)
- (5) 死と地獄の審判 ▶ 神様を否認して現実にだけ執着して、結局は、死んで地獄の永遠な審判を受けるようになります。(ルカ 16:19~31、ヘブル 9:27)
- (6) 霊的な遺産 ▶ 結局はすべての問題がまた再び子どもに相続されます。(出 20:4~5)

## 4. 唯一の解決策-キリスト

だれでもイエス・キリストを心から信じて受け入れれば救われます。(ローマ 10:13、ローマ 10:9~10、黙示 3:20、ヨハネ 1:12)



▶ 次の祈りを心から告白すれば良いのです。

父なる神様、私は罪人です。私は今まで私が望むとおりに生きてきました。しかし、今、イエス様が私のために十字架で死んで復活されたキリストであるという事実を信じます。私の心の扉を開いてイエス様を私の救い主として受け入れます。私の心の中に来てくださって、永遠に私を導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

## 5. 救われたあなたは大きい祝福を受けました

- (1) 神様の子ども ▶ いまは、あなたはたしかに神様の子どもです。(ヨハネ 1:12)
- (2) 聖霊内住、導き、働き ▶ 聖霊がいつもともに同行して下さり導いてくださいます。(1コリント 3:16)
- (3) 祈りの答え ▶ 神様はあなたの祈りに答えてくださいます。(ヨハネ 14:13~14、16:24)
- (4) サタンを縛る ▶ イエス様の権威でサタンの勢力を縛ることができます。(マルコ 3:13~15、ルカ 10:19、マタイ 12:28~29)
- (5) 天使動員 ▶ 神様が天使を送って守ってください。(ヘブル 1:14、黙示 8:3~5、詩 103:20~22)
- (6) 天国の国籍 ▶ 天国の国籍を所有した神様の民として、この地でもその祝福を味わうことができます。(ピリピ 3:20)
- (7) 世界福音化 ▶ 福音で世界を征服して治めることができる権威を回復するようになりました。(マタイ 28:16~20)

## 神様の子ども毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられ、導いてくださることを感謝します。今日もすべての生活の中で神様の子どもとなった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行く歩みごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら聖霊に導かれる生活になりますように。それで、私の生活を通してイエス様がキリストであることがあかしされるようにして下さり、私の現場に神の国が臨むようにして下さい。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利しますように。今も私とともにおられるイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン



## このむなしさは なんででしょうか？

朝になっても、昨夜の疲れをとることもできない現代人に、ある日、また他の重荷ができて抑えられるようになる。生きなければならぬが、生きる意味を見つけることができない日常の人間の姿が痛ましくすら感じる。

フランスの哲学者であり、数学者であるブレーズ・パスカル (Blaise Pascal) は39歳の年齢で死んだが、彼が死んだ後に発見された断片的な草稿を集めて、1670年に刊行したのがパンセ (Pensees) だ。彼は哲学で解くことができない人間の問題を神様との関係の中で考えを解いていった学者であった。彼の本はキリスト教の弁証論だが、深い哲学的理解のために、かえって一般の哲学者として人々に知られている。パスカルは、幼い時からユークリッドの命題を解くことができたし、その後に数学と幾何学で頭角を現わして父のために計算機を作った。当時、人望が高かった哲学者であり、数学者だったデカルト (Rene Descartes) と交際したりもしたが、かえってデカルトの思想を批判する立場に立った人だ。

パスカルのパンセは、人類精神史に影響を与えた100冊の本の中にしばしば選ばれる。彼の考えの中で「人間は、自然の中で最も弱い一本の葦にすぎない。しかし、それは考える葦である」パンセという意味は「考えること」という意味だと見ると、人間は考える葦ということばを通して、考えは人を偉大にさせるということが重要な意味を伝える。それなら、彼の話の中で「だれが私をこの世の中に生まれるようにしたのか、世界は、そして、私は何か分からない。私はすべてのことに対し知っていることがない。私は私の肉体、私の感覚、私の精神が何か分からない。私は私を取り囲んだこの宇宙の巨大な空間を見る。そして、広大な宇宙のひとつの曲がり角に立っている自分自身を発見する」このように深い瞑想を可能にした天才数学者の心の中で得た答えは、人間の心の中にむなしさ、すなわち空いた空間があると

いうことであつたが、それは、ただ創造主である神様によってだけ埋めることができるということがまさに偉大な哲学者の告白である。

豊かさのために走って行く人の終わりもむなしくて、美しさのために走って行く人も、すてきな最後も醜悪であることを私たちは歴史を通して発見する。名誉を追求する力強い走りを私たちは励ますが、そのすばらしさを最後まで守った人々が、はたしてどれくらいいるのかということだ。

人生が創造される瞬間には、人間は十分に満たされることを味わうことができた。全宇宙を所有して万物を支配することができた。しかし、神様のかたちが人間を離れた後に、人間が宇宙を見上げるが、所有できなくて、万物を憂え苦しく努力してこそ獲得できる位置になった。かえって、人間の中で絶えず苦しみを訴える自我は、人生のむなしさであり、人生になんとかある寂しさだ。どんなときよりも、見るものが多くて、多くのことを持っても、心で味わう平安の自由を持った人は発見しにくい。すべての人が隠しているからであって、みんな苦しいのだ。力で抑えられて、もがいているのだ。それで、パスカルが力説しているのではないか。「人間は考える葦である」と。しかし、その考えを通してパスカルは、神様の考えで答えを得たが、人々はその考えを通して無駄になることを追求するので、なんとなくある寂しさが解決されないまま苦しみだけ繰り返す。

聖書は「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」(ヨハネの黙示録 3:20) と言っているが、人間のなんとなくある寂しさを満たす完全な答えがまさにこれなのだ。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

\* 相談したい方はこちらまでどうぞ